

平成27年度 警察本部 運営目標

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
1 地域力向上や先制的な検挙・抑止活動により犯罪の起きにくいまちづくりを推進し、体感治安を向上します。				
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	犯罪の発生が抑止されること		
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	女性や地域の力をいかし、防犯力が向上すること		
①	刑法犯認知件数を11年連続で減少します。 <刑法犯認知件数(年間): 28,000件以下(㊟実績 28,671件)>		◎	刑法犯認知件数(27年中): 24,068件(116.3%)
②	先制的な抑止活動を推進するため、犯罪防御システム(仮称)の構築に向けた取組を行います。		○	予測型犯罪防御システムについては、平成28年度当初予算を獲得し、平成28年10月の完成、運用に向けて取り組む。
③	迎撃捜査システムの活用等、科学捜査力を用いた捜査支援の仕組みの充実により、府民が身近で不安を感じる凶悪犯罪や性犯罪、連続発生する犯罪等を徹底検挙します。		○	迎撃捜査システムを活用する等、科学捜査力を用いた捜査支援を実施して、凶悪犯罪や性犯罪等を検挙した。 府民が身近で不安を感じる凶悪犯罪や性犯罪、連続発生する犯罪等の徹底検挙に努め、下鴨警察署に設置した殺人・死体遺棄事件の捜査本部事件については、被疑者を検挙、解決した。 凶悪犯罪検挙率 76.0%(前年対比-7.8P) 重要犯罪検挙率 70.8%(前年対比+10.1P) 重要窃盗犯検挙率 55.9%(前年対比+0.8P) 連続犯に対しては、早期被疑者検挙による被害拡大防止に努めており、迅速・的確な事件分析、積極的な迎撃捜査システムの運用、防犯カメラ画像・足跡・DNAの鑑定等による客観的証拠の収集に努め、本件・余罪問わず、公判を見据え科学捜査力による緻密な捜査を推進している。 DNA型鑑定取扱件数 1,028件(前年対比-107件)
④	高齢者を中心に被害が拡大している特殊詐欺に対し、全部門の総力を結集して予防対策の推進と検挙活動を徹底します。		○	全部門の捜査員により編制した特殊詐欺緊急取締対策プロジェクトチームを設置の上、迅速なだまされた振り作戦の実施により検挙した被疑者からの突き上げ捜査を徹底したほか、犯行主要ツールであるレンタル携帯電話の遮断対策、各種犯行ツールの解約依頼、関係機関と連携した高齢者宅の訪問による啓発活動、高齢者が多く利用する病院等をモデル事業所に指定しての被害抑止に向けた啓発活動、金融機関との連携による現金の送金・送金直近での被害阻止である、いわゆる水際阻止の取組などにより、検挙及び被害の未然防止活動を推進した。 特殊詐欺認知件数 168件(前年対比+9件) 特殊詐欺被害総額 約7億9,527万円(前年対比-3億5,324万円) だまされた振り作戦実施件数 104件(前年対比-22件) 振り込め詐欺検挙 23件24人(前年対比-9件+4人) 振り込め詐欺以外の特殊詐欺検挙 17件15人(前年対比+6件+6人)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑤	行政等と連携した防犯灯や防犯カメラの設置などの防犯環境の整備促進、府民が不安に感じる性犯罪等に対する学識経験者等の知見を活かした新たな視点による対策を強化します。	◎	防犯カメラ等の設置に向けた継続的な働き掛けなど、行政、事業者、地域住民等との連携を図り、防犯環境の整備に向けた取組を推進した。 性犯罪対策として、学識経験者等を迎えて設置した「京都府警察犯罪抑止対策調査研究会」からの提言を受け、シンポジウムを開催して社会全体で性犯罪対策を推進する気運を高めたほか、「京都府防犯モデル賃貸マンション認定制度」や大学とタクシー会社の協定締結によるタクシー料金学割制度の構築など、新たな視点による対策を推進した。
⑥	「府民協働防犯ステーション」の活動強化に向け、女性警察官の視点と力を活用し、女性ボランティア団体、高齢者等への積極的な働きかけを行い、ステーション活動への参画を促進するなど、地域の特性や希望に添った幅広い支援活動に取り組みます。 ＜女性警察官が行う府民協働防犯ステーション活動への延べ参加人数 3,675人(㉗新規)＞	○ ◎	女性警察官の視点と特性を生かした女子大生等へのアプローチにより、大学等との協定締結や連携活動の新たな広がりを推進し、地域防犯力向上に向けた取組を実施した。 女子大学生や女子高校生等との協働によりまち歩きを実施し、把握した危険箇所を盛り込んだ地域安全マップづくりや割れ窓理論の実践活動を展開してきたことで、地域の安全・安心は自分達の手で守るという意識付けがなされ、更に地域にかかわる人同士の結束強化を図ることとなり、刑法犯認知件数の大幅な減少など、地域防犯力の向上に一定の成果があった。 女性警察官が行う府民協働防犯ステーション活動への延べ参加人数 5,337人(145.2%)
⑦	「京(みやこ)すぐメール」やSNS、地図情報の発信等多様なツールを活用して、府民に対し、そのニーズに応じたきめ細やかな情報を提供することで、地域住民等による自主防犯活動の活性化を図るなど、地域防犯力の向上に向けた取組を推進します。 ＜防犯・犯罪情報メールの有効登録件数:37,000件以上(㉗新規)＞	○	「防犯・犯罪情報メール」や「京(みやこ)すぐメール」のほか、京都府警察Facebook等により、犯罪の発生状況や被害防止対策等の防犯情報をタイムリーかつきめ細やかに配信することで、自主防犯活動の活性化等、地域防犯力の向上を図った。 防犯・犯罪情報メール有効登録件数(27年末): 36,511件(98.6%)
⑧	産業界との一層の連携強化を図るとともに事業者による防犯CSR活動を促進します。	○	防犯情報登録企業に対し、地域別・職種別等の犯罪発生状況や被害防止対策等の防犯情報をきめ細やかに配信したほか、京都府商工会議所連合会等の後援を受けて「防犯CSR研修会」を9月に開催するなど、あらゆる機会を捉えた経済団体等に対する働き掛けを行い、防犯CSR活動を活性化させるための取組を推進した。
⑨	ストーカー・DV等重大事件に発展するおそれのある事案への迅速・的確な対応を徹底するとともに、子供や女性の安全確保に向けた先制・予防的活動を推進します。	◎	重大事件に発展するおそれのあるストーカー・DV等事案については、部門の枠を越えた連携の下、被害者等の安全確保を徹底するとともに、行為者に対する迅速・的確な検挙対策を推進した。また、性犯罪の前兆と認められる声掛け・つきまとい事案等の検挙・指導警告等、子供や女性の安全確保に向けた先制・予防的活動を推進した。 ※ 検挙状況(27年中) ・ ストーカー事案 56件(前年対比+4件) ・ DV事案 131件(前年対比+4件) ・ 前兆事案 442件(前年対比+5件)

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
達成手段 (数値目標)	⑩ 関係機関・団体との情報共有及び連携を強化し、認知症高齢者等の行方不明者の早期発見と適切な保護に努めます。	○	各警察署において、地域包括支援センターが主催する地域ケア会議等に参加し、情報交換や地域ごとの個別課題の検討等を行ったほか、各市区町村・地域包括支援センターが行っている「SOSネットワーク」の再構築に関して、行方不明や保護の実態等を情報提供するなど、認知症高齢者等の行方不明者の早期発見・保護に向けた情報共有・連携強化を図った。
	⑪ 「京都府遊泳者及びプレジャーボートの事故の防止等に関する条例」を効果的に運用し、海域等における遊泳者の保護及びプレジャーボートに対する指導・取締りなどを行い、「安心・安全な海の京都」を構築します。	○	各種広報啓発活動及び夏期(7~8月)における重点的な指導取締りを行った結果、海水浴場における死亡者は、昨年に引き続き「0人」であった。 ・水上安全条例に基づく取締結果 指導警告 84件(前年対比 -64件) ・その他の船舶関係法令に基づく取締結果 検挙 4件(前年対比 +1件) 警告 82件(前年対比 +11件) ・海水浴場における水難事故の減少 2件3人 内死者0人(前年対比 -2件-1人 うち死者±0人) ・海における船舶航行に伴う人の死傷事故の減少 0件0人 内死者0人(前年対比 -1件-2人 うち死者±0人)
	⑫ 高齢者を対象とした悪質商法事犯の取締り強化、関連機関と連携した被害の未然防止・拡大防止対策を推進します。	○	高齢者宅を訪問し、屋根瓦の補修工事等の契約を強引に結んだり、名簿を作成し、以前の購入顧客に再度高額商品を売り付ける訪問販売業者等、悪質業者に対する取締りを推進した。 また、関係行政機関との定期的な情報交換による被害実態の早期把握、防犯教室等による広報啓発活動、悪質商法等に利用された口座の凍結や携帯電話機の確認要求等の犯罪に利用されるインフラへの対策など、被害の未然防止・拡大防止に向けた対策を推進した。 ※ 悪質商法事件の検挙状況(27年中)：22件(前年対比-11件) 口座凍結件数(27年中)：2,971件(前年対比-733件)
	⑬ 犯罪を助長、容易にする犯罪インフラの実態解明と取締りを強化し、関係行政機関や事業者等と連携した犯罪インフラを生まない環境づくりを推進します。	○	入国管理局との情報交換や合同立入りにより、パキスタン人による偽装結婚事件、韓国人クラブにおける不法就労助長事件を検挙したほか、フィリピン人による地下銀行や中国人エステ店を仮装した風営法違反店舗の摘発から在留資格の不正取得目的で、架空会社の法人登記申請を代行していた行政書士を司法書士法違反を検挙するなど、犯罪インフラの壊滅を推進した。 また、留学生や飲食店関係者等を対象とした多言語による犯罪被害防止広報ビラの作成配布や広報啓発活動を実施したほか、部内関係各課による会議の定期開催により、情報の共有や事件化の推進を図り、他府県警察や関係行政機関等とも積極的に連携し、犯罪インフラを生まないための環境作りに向けた情報交換を実施した。

運営目標		達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
⑭	京都府暴力団排除条例を始めとするあらゆる関係法令を駆使して暴力団犯罪等を徹底検挙し、犯罪組織の実態解明と資金剥奪による弱体化を図るなど、暴力団排除活動を強化します。	○	<p>暴力団組織を弱体化させ壊滅に追い込むための戦略的な取締りを推進し、指定暴力団六代目会津小鉄会傘下組織首領らによるオートローン詐欺事件、指定暴力団六代目山口組傘下組織首領らによる恐喝事件、神戸山口組傘下組織首領らによる電磁的公正証書原本不実記録等事件など組織の中核幹部を検挙するとともに、六代目山口組直参組織首領らによる露店営業許可の不正取得詐欺事件、六代目会津小鉄会傘下組織首領らによる恐喝事件、六代目山口組傘下組織組員らによる京都府暴力団排除条例違反(用心棒代)事件等、組織の資金源を遮断する取締りを実施した。</p> <p>また、六代目山口組が分裂したことを受け、祇園地区などに対して特別暴排ローラーを実施するとともに、暴力団対策法に基づく中止命令15件、京都府暴力団排除条例に基づく勧告2件(違反行為者6人)を実施する等、暴力団に真に打撃を与える暴力団総合対策を推進した。</p> <p>暴力団犯罪検挙状況(平成27年中) 503件、356人(前年対比-226件、-51人)</p>
⑮	京都府薬物の乱用の防止に関する条例に基づく広報啓発活動等により、薬物の有害性・危険性についての正しい知識の周知と社会全体における薬物乱用を拒絶する気運の醸成を図るなど、薬物対策を推進します。	◎	<p>各学校、専門学校、大学での薬物乱用防止教室のほか、社会人、企業、各種団体等に対し、講習を実施したほか、学生自主参画のキャンペーン、シンポジウムの開催、高校生に対する違法薬物に関するアンケート調査、学生ボランティア、地域の防犯団体、行政関係者らとの協働で、薬物乱用防止のためのパレード等の実施や各種会合等における講演等広報啓発活動を積極的に推進した。</p> <p>また、危険ドラッグ販売店を撲滅するため京都府薬物の濫用の防止に関する条例に基づく立入調査の実施やインターネット上の有害広告の削除要請等の薬物対策を推進した。</p> <p>薬物乱用防止教室・講習の開催 開催回数722回、受講者数77,823人(前年比+157回、+25,316人)</p>
⑯	安全・安心な中心繁華街の定着に向けて、祇園・木屋町特別警察隊の効果的な運用等により、悪質な風俗事犯等に対する取締りを徹底するとともに、行政・商店街等と連携した対策を推進します。	○	<p>悪質な客引き事犯等の風俗事犯に対する取締りを推進したほか、祇園・木屋町特別警察隊の集団警ら活動により、急訴事案への迅速・的確な対応を図るとともに、行政・地元商店街等との協働による防犯パトロールや「木屋町クリーン作戦」等の環境浄化活動を継続的に実施するなど、安全・安心な中心繁華街の定着に向けた官民一体となった対策を推進した。</p> <p>※ 27年中の状況(中心繁華街地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風俗関係事犯検挙状況: 63件(前年対比-7件) ・ 屋外刑法犯認知件数: 403件(前年対比-44件) ・ 行政・地元商店街等との協働活動: 123回(前年対比+2回)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
2	サイバー空間における脅威への確に対処します。			
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	サイバー空間の安全と秩序が保たれること		
達成手段 (数値目標)	①	府内事業者に対するITに関連する事故・事件の予防対策と発生時の対応の支援、情報セキュリティ意識の醸成等を目的としたオール京都組織を設立します。	◎	府内中小企業の情報セキュリティ向上や対策の支援を目的とするオール京都組織「京都中小企業情報セキュリティ支援ネットワーク」を設立し、ITに関連する事故・事件等に係る相談を受け付け適切な助言を行う窓口を開設するとともに、産学公連携した広報啓発等に取り組んだ。
	②	違法・有害情報の排除に向けた取締りを強化します。	○	ライブ配信サービスを舞台とするサイト運営者に係る公然わいせつ事件、匿名化ソフト「Tor」を利用した児童ポルノ法違反事件、発売前の人気漫画雑誌を対象とした著作権法違反事件等、悪質かつ社会的反響の大きい事犯を検挙した。 ※ サイバー犯罪検挙状況(27年中):199件(前年対比-110件)
	③	大学や民間事業者等と連携して捜査員の育成や調査・研究を行い、警察全体のサイバー犯罪等への対処能力を向上します。	○ ◎	京都サイバー犯罪対策研究会会員である大学、企業等の有識者と連携したサイバー捜査官の育成等の研究及び立命館大学情報理工学部とのサイバーセキュリティ分野を中心としたICT人材育成カリキュラムの協働開発に係る覚書の締結によるサイバー特別捜査官に係る新たなカリキュラムの策定等を行うなど警察全体のサイバー犯罪等への対処能力の向上を図った。
	④	ネット安心アドバイザーの運用を始めとした産学官連携によるサイバー犯罪の被害防止対策を推進します。 ＜警察職員やネット安心アドバイザー等によるサイバー犯罪被害防止講演の実施回数(年間):1,625回以上(◎実績 1,573回)＞ ＜サイバー犯罪被害防止に係る広報啓発活動の実施回数(年間):500回以上(◎実績 466回)＞	◎	ネット安心アドバイザーによる講演を始め、関係機関と連携した広報啓発活動を積極的に実施するなど、サイバー犯罪被害防止対策を推進した。 また、平成27年8月には、産学官連携による「京(みやこ)サイバー犯罪対策シンポジウム(青少年編、企業編)」を、同年12月には立命館大学と協力して、サイバー犯罪被害防止対策ソフトウェア開発目的としたアイデアコンテストを開催するなど、サイバー犯罪に関する府民や企業の意識向上を図った。 警察職員やネット安心アドバイザー等によるサイバー犯罪被害防止講演の実施回数(27年中):1,705回(104.9%) サイバー犯罪被害防止に係る広報啓発活動の実施回数(27年中):511回(102.2%)
	⑤	府内重要インフラ事業者等への個別訪問により、サイバー攻撃被害の予防活動を推進します。 ＜個別訪問によるサイバー攻撃被害予防活動の実施事業所数 年間220事業所(◎実績 197事業所)＞	◎	個別訪問実施事業所件数:254件(115.5%)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
3 交通死亡事故抑止対策を推進します。				
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	交通事故が減少すること		
達成手段 (数値目標)	①	交通事故分析の高度化により交通事故の発生を予測して、交通の規制、取締り、安全教育を組み合わせた戦略的な対策を推進し、交通事故発生件数、死者数、負傷者数の減少を目指します。 <交通事故発生件数:10,000件以下(㊟実績 10,185件)、死者数:61人以下(㊟実績 69人)、死傷者数:12,000人以下(㊟実績 12,456人)>	○	交通事故発生件数: 9,328件(107.2%) 交通事故死者数: 87人(70.1%) 交通事故死傷者数: 11,349人(105.7%)
	②	歩行者等の安全な通行を確保するため生活道路や子供の通学路における「ゾーン30」の指定拡大を推進し、危険な運転から府民を守ります。 <ゾーン30の設定:41箇所(累計)(㊟新規)>	◎	ゾーン30の設定(累計): 41箇所(100%)
	③	府民から提供される悪質・危険運転者に関する情報を分析して飲酒運転等の取締りを強化するなど、悪質・危険運転者対策を推進します。 <飲酒運転による交通事故件数:40件以下(㊟新規)>	○ ◎	◎ 飲酒運転による交通事故件数: 33件(121.2%)
	④	産学官連携による反射材等の開発や高齢運転者に対する質の高い安全教育等を推進します。 <高齢者の交通事故死者数:30人以下(㊟実績 38人)、全事故に占める高齢運転者の割合:17%(㊟新規)>	△	高齢者の交通事故死者数: 44人(68.2%) 高齢者の歩行中における死者が増加(44人のうち23人が歩行中)し、前年対比+8人となった。中でも夜間歩行中の高齢死者は6割以上(14人)であったが、反射材の着用がないなど、自身の交通事故防止対策が浸透されていないことが要因として考えられる。
	⑤	自転車利用者に対するルール周知と指導取締りの強化、道路管理者と連携した自転車の安全快適な通行環境の整備等、自転車の安全利用を促進します。 <自転車事故発生件数:前年(2,182件)以下(㊟実績 2,182件)>	◎	◎ 自転車事故発生件数: 1,916件(113.9%)

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
4 総合的な危機管理対策を推進します。				
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	地震、津波、風水害等による被害が軽減されること		
達成手段 (数値目標)	①	京都府や気象庁等の防災関係機関との連携強化、装備資機材の充実強化等により、円滑な避難誘導、広範かつ多様な救出救助活動に対応するための災害警備体制を構築し、迅速・的確な災害警備活動を行います。	◎	京都府防災・危機管理・消防担当者会議への出席、防災関連会議での情報共有や気象庁担当者による災害警備専科での教養など、あらゆる機会を活用して連携強化に努めた。また、府北部や山城地域の警察署に対するコンクリート粉砕機の配備により警察署の対処能力の向上を図るとともに、南海トラフ巨大地震を想定した京都府警察総合警備訓練を年度内に2回実施し、発生時の迅速な警備体制の構築に努めた。
	②	救急救命士等を指導者とする災害現場を想定した訓練を行い、部隊の対処能力の向上を図ります。	○	機動隊、教養課等と連携したレスキュー技能向上のためのワーキンググループを設置し、救急救命士を中心としたレスキュー技能に係る指導体制を構築したほか、倒壊家屋を工学的に再現した災害警備訓練設備を整備し、より実戦的な災害警備訓練により部隊の対処能力向上を図った。
	③	京都府等関係機関との国民保護を想定した合同訓練を実施して警察部隊の対処能力を強化し、府民の避難、救出等の措置を徹底します。	○	京都府との訓練実施へ向けた課題の抽出と検討を行い、来年度の訓練計画を検討したほか、京都府国民保護セミナーでのテロ対策に係る講演、ゼスト御池地下街でのテロを想定した関係機関との合同訓練の実施により、警察部隊と関係機関の連携した対処能力の向上を図るとともに、府民を避難誘導する事業者への教養、訓練を行うなど、官民一体となった府民の避難措置の強化を図った。
	④	防災拠点となる警察施設の耐震強化対策を計画的に推進します。	○	警察施設の耐震強化対策については、これまで7施設(西京警察署、上京警察署、運転免許試験場別館、亀岡警察署、田辺警察署、福知山警察署、綾部警察署)の耐震強化改修を行っているほか、平成27年度中、宮津警察署の耐震強化改修を完了するとともに、南警察署については、建替整備により耐震化を実施(平成27年度末の耐震化率:71.43%)した。 また、警察本部庁舎のうち、耐震性能が不足している本館及び別館については、建て替えにより耐震化することとし、平成28年度中の着工に向け、現在、実施設計を進めている。

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
5 少年非行防止総合対策を充実・深化させます。				
中期計画	府民安心の再構築	子育て・子育ての安心	少年非行の状況が改善されること	
達成手段 (数値目標)	①	少年の規範意識向上を図るとともに、インターネットの利用等による犯罪被害やトラブルを防止するため、学校や教育機関との連携の下、府内全ての小・中学校において非行防止教室を実施します。 ＜全小・中学校における非行防止教室の実施(年度):591校(㊟実績 595校)＞	○	<p>スクールサポーターに対する研修等により指導内容の充実を図るとともに、学校や教育委員会等と連携し、小・中学校における非行防止教室を積極的に推進している。</p> <p>小・中学校における非行防止教室の実施校(平成27年度中):591校中589校(99.7%、実施回数:1,953回(前年度対比+308回))</p>
	②	非行少年グループの早期検挙・解体を図るとともに、「立ち直り支援チーム」等の関係機関やボランティア団体等と連携した立ち直り支援活動を推進し、再犯少年の減少を目指します。 ＜刑法犯少年のうち、再犯に及んだ少年数(年間):513人以下(㊟実績 545人)＞	○	<p>非行少年グループによって敢行された事件の早期検挙とグループの解体に取り組むとともに、学校や教育委員会等と連携し、再非行防止・再結成防止に向けた取組を推進した。また、継続補導及び少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動を継続的に実施するとともに、「立ち直り支援チーム」等の関係機関と連携した就労支援等の立ち直り支援活動を推進した。</p> <p>刑法犯少年のうち、再犯に及んだ少年数(27年中):338人(151.7%)</p>
	③	非行事象に応じたスクールサポーターの効果的な運用を図るとともに、「非行防止対策チーム」によるパトロールや声掛け活動を推進します。	◎	<p>課題を抱えた学校に対する重点的な訪問活動を実施するなど、スクールサポーターの効果的な運用を図るとともに、全警察署単位で結成された「非行防止対策チーム」には、少年警察ボランティア・学校・PTA等が参画し、商業施設等の少年のい集場所に対するパトロールや少年への声掛け活動等、地域の実情に応じた取組を推進した。</p> <p>※ パトロール等の実施状況(27年中):919回(前年対比+24回)</p>

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
6 犯罪被害者等に対する支援を充実します。				
中期計画	府民安心の再構築 暮らしの安心	被害者や被災者の心身両方のショックが癒されること		
達成手段 (数値目標)	①	犯罪被害者等の心情に配慮した専用相談室等を整備するほか、指定被害者支援要員を迅速に運用し、犯罪被害者等への支援を的確に行うとともに、公費負担制度を適正に運用して、精神的、経済的負担の軽減に努めます。	○	庁舎の改修や建替に併せて専用相談室の整備を行うとともに、事件発生直後から指定被害者支援要員を運用して犯罪被害者等への支援を行い、公費負担制度を運用するなど、精神的、経済的負担の軽減に努めた。
	②	性被害者に対して、被害直後から心のケアや診察・証拠保全、法的支援等の総合的な支援を提供する「性被害者ワンストップ相談支援センター(仮称)」の設立に向け関係機関等と連携するほか、同センターと連携して性被害者の心身の負担軽減とその早期回復を図ります。	◎	京都府健康福祉部家庭支援課等の関係機関と協議し、「京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター(京都SARA)」が設立。 また、設立記念イベントを実施して同センターの周知を図るとともに、同センターと連携し、性暴力被害者への適切な対応に努めた。
	③	中長期的な支援が必要な犯罪被害者等に対して適切な情報提供を行い、公判傍聴や出廷への付添、カウンセリング等の支援を行っている公益社団法人京都犯罪被害者支援センターを始めとした関係機関・団体と連携し、途切れない支援に取り組めます。	○	精神的なショックが大きい犯罪被害者等に対して、臨床心理士によるカウンセリングを行うとともに犯罪被害者等の要望に応じて、公益社団法人京都犯罪被害者支援センターや京都弁護士会等の関係機関・団体と連携し、途切れない支援を推進した。
	④	京都府犯罪被害者サポートチームと連携して、あらゆる機会を通じた犯罪被害者遺族の講演会や中高生を対象とした「命の大切さを学ぶ教室」を積極的に開催し、被害者も加害者も出さないまちづくりに向けた広報啓発活動を推進します。	◎	京都府犯罪被害者サポートチームと連携して「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、犯罪被害者遺族による講演を行ったほか、ひまわりの絆プロジェクトを始めとした被害者も加害者も出さないまちづくりに向けた広報啓発活動を推進した。

運営目標			達成区分	達成状況(数値目標の実績・達成率 未達成の要因・理由)
7 警察署等の再編整備・交番等の機能強化を推進します。				
中期計画	住民安心の再構築 暮らしの安心	女性や地域の力をいかし、防犯力が向上すること		
達成手段 (数値目標)	① 地域の実態を的確に把握するとともに、交番勤務員や交番相談員の効果的な配置・運用により、立番やパトロールの強化、事件事故発生時の迅速な現場対応、地域安全情報のタイムリーな発信など、住民要望に基づいた地域警察活動に取り組みます。		○	<p>地域の安全・安心を確保するため、交番勤務員等による立番勤務やパトロール活動の強化、巡回連絡や交番・駐在所連絡協議会による地域の問題点、要望等の把握、ミニ広報紙及び交番速報のタイムリーな発行による地域安全情報の提供に努めている。</p> <p>交番相談員については、平成19年以降の増員配置はないが、府内 194交番中、136交番に各1人配置し、警察官不在中の来訪者への対応、交番連絡協議会等への参加、特殊詐欺被害の未然防止等を目的とした「いたわりテレホン」の実施など、地域の実態に応じた活動を推進している。</p> <p>平成27年中 リスポンスタイム(京都府内平均):5分49秒(前年比-0分17秒) 巡回連絡実施数:676,836回(前年比-71,448回) 交番・駐在所連絡協議会活動回数:944回(前年比-249回) ミニ広報紙発行紙数:3,196紙(前年比-51紙) 交番速報発行数:3,285紙(前年比+22紙) 交番相談員による交番連絡協議会への参加回数:334回(前年比-49回) 「いたわりテレホン」実施数:95,557件(前年比+1,888件)</p>
	② 「警察署の再編整備実施計画」及び「交番・駐在所等の機能充実・強化プラン」に基づき、警察署や交番・駐在所等の再編整備(新設・移転・統合等)を推進するとともに、交番・駐在所施設に地域防犯活動の拠点となるコミュニティルームを始めとする施設を整備します。		○	<p>これまでに1警察署の新設、7警察署の廃止、延べ23警察署の名称変更・管轄変更を行い、31警察署を25警察署に再編した。今後は、警察施設全体の整備計画を踏まえつつ、左京区と伏見区の再編を段階的に進め、最終的に24警察署に再編する計画である。</p> <p>老朽・狭あい化著しかった南警察署については、新庁舎が完成し、平成27年10月から新庁舎での業務を開始した。</p> <p>交番・駐在所等の整備については、「交番・駐在所等の機能充実・強化プラン」に基づき、3交番(向島交番、梅津交番、久我交番)、1駐在所(物部駐在所)の建替整備に合わせ、コミュニティルームを整備した。</p>

目標達成状況(達成区分)	件数	割合
目標達成「◎」(達成手段のすべてが◎)	0	0%
概ね達成「○」(達成手段の◎○が2/3以上)	7	100%
未達成「△」(達成手段の◎○が2/3未満)	0	0%
計(運営目標数)	7	

【達成手段(数値目標)の達成区分】
 「◎」…目標達成・上回って進捗(達成率100%以上)
 「○」…概ね達成(達成率90%~100%未満)
 「△」…未達成(達成率90%未満)